

大連熟食品交易中心(A 自由市場)は交通大学の宿舎から歩いて 20 分の所にある。



生活食品なら何でも安く売っている。この建物に行く階段(B)にも零細業者が品物を売っている。ひよこ、亀、金魚などなど。建物の一階正面には大药房(C 薬局)と清真(D 回教徒が経営する)食堂が見える。建物の中央(E)に入ると広大な敷地に店舗が並んでいる。この中央から右側に日常食品売り場、果物売り場(F)が、左側には肉、海鮮、野菜売り場がある。炯子(G ミエンス)という寒天に味付けした大連名物を買って物客が食べているが、あまりおいしくない。





A



B



菓子屋



Aの干物売り場で、私はときどきスルメを買っている。
Bで包子を買って、立ち食いしながら店をめぐっている。



肉



肉売り場の多いことには驚く。試みに、店の数を数えたら百を超えた。おそらく、百三十店はあるだろう。

間口2メートルほどの個人営業で、豚・鶏・羊などの専門店らしい。細腕ならぬ逞しいおばさんが店を取り仕切っている。大連にも少数ながらイスラム教徒がいるので、彼らは羊肉を食べるのだろう。学友のモンゴル人も羊肉が好物だ。中国では牛肉の質が悪いので、羊肉が上等なのだ。日本人には羊肉が臭いと嫌う人がいるが、そんなことはない。私も羊肉を愛好している。



市場の左端に、海鮮食品と野菜売り場がある。大連熟食品交易中心には週末に一回午前中に行っている。何も買わなくても、大勢の客に交じって活気ある市場の品物を見ているだけで楽しい。

つぎに、この市場と通りを挟んで「西南路综合批发市场」がある。

「批発市場」とは卸売り市場という意味だ。が、客は一般庶民ばかりなので、大安売りの青空市場と考えていいだろう。大連熟食品交易中心を見たあと、私はこちらへも足を運ぶ。日曜日の午前中には買い物客が多い（朝市なので、午後は閉店）。

次頁からの写真では、品物がよく写るように人の流れが途絶えたときを狙ってシャッターを切ったのだが、実際には人ひとりで混雑しており、人の流れに身を任せて歩いているのだ。



貝類が石ころのようにごころ山積みして売っている。さすが海辺だ

この時期、西瓜と櫻桃（サクランボ）、草苺（イチゴ）が出回っている。その他にも各種瓜が豊富だ。海産物も多い。

女性用衣類、帽子、サンダルなども売っている。



混雑の中で、乞食が頑張っている。



露店で電池を買ったら、新品のはずが電気が消耗していた。電気類をこんな安売り市場 ↑ で買う私がバカなのだ。野菜売りのおばさんは片足を商品台に乗せて食事中。 ↓ 朝鮮族の風習か？



片隅で生きた鸡（鶏）を売っていた。江南地方では、鶏由来のウィルス性疾患で死者が出ているそうだが、北国大連では大丈夫か？ ←



今日は、お好み焼きの食材、山药（ヤマイモ）と圆白菜（キャベツ）、乌贼（イカ）を買った。留学生寮に独居している私は、週末にこのような活気ある市場を彷徨っているほうが、気分転換で快い。日本では家内任せだったのに、中国で買い物をする楽しみを知った。だが、今夜は何を作ろうか？（太らないように） 皿を洗わねば！ 洗濯もしなければ！——独り身は大変だ。